

創学舎ニュース

No.275

夢・やりたいこと⑤

●名画を描きたため、誰にも見せることなく死んでいく画家。名曲を作り、それを一度も発表することなくこの世を去る作曲家。ありえない。まず、ありえない。彼らが、いかに人間嫌いで偏屈であろうと、彼らが望んでいたことは間違いない。3つあったのだ。①創作に打ち込み業績を上げること。②世の中に認められること。

③創作を支え、自らの生命を維持するための経済力を持つこと。数多の芸術家や創造的な仕事を目指した人達の中で、この3つを併せて手に入れることを望まなかった者は皆無、いたとしても極少数であっただろう。

●さて、いわゆる普通の大人達はどうだろう。きみ達のお父さんやお母さんはどうだろう。実は、数多の芸術家とそれほど変わらない。①仕事に打ち込んで業績をあげること。②他の人に認められること。③自分の生命と家族の生命と生活を支えるための経済力をもつこと。この3つが、彼らの望んでいることであり、したいことなのである。勿論「うちの親は、趣味に生きています」とか「仕事は嫌いだ、といっています」という声もある。しかし、それは、その親が仕事に打ち込んでいないことの証左にはならない。嫌いでも働く時はしっかりやる人も多い。仮に打ち込んでいないとしても、打ち込める仕事を欲していたはずだ。

●結論である。人間のほとんどが望んでいるのは、3つの共通の項目なのだ。整理しなおすと①打ち込めるものを見つけ、それに打ち込むこと。②認められること。③自分の生を支える経済力を持つこと。だから、「したいことは何ですか」ときみ達が問われたら、この3つをあげなければならぬ。そして、幸いなことに、大多数の大人はこの3つを目指して生きているのだ。心底、今の仕事が嫌いな人でも、きつと、②と③はやっているのだ。だから、生きていけるし、それなりに価値のある日々が送れるのだ。しかし、不幸なことに、

②と③だけでも目指せることの有難さは忘れられている。否、感じられていないという方が正しいかもしれない。いっそ、2ヶ月とかの期間限定でホームレス生活を送らざるをえない状況に追い込まれるようなことがあれば、②と③の有難さを実感できるのだろうか……。



●そして、「②と③をも自分は望んでいる」という意識の希薄さは、社会に、そして特に若い世代に大きな影を落としている。②・③の自覚がないまま、「好きなことをしたい」「やりたいことだけをしたい」という思いのみで、しかもその思いが客観的にみて決して強くないにも関わらず将来像を描こうとするのは危ない。さらに言えば、「好きなこと」「やりたいこと」はなかなか自分でもみつけにくいものである。いつみつかるとは分からないし、下手すると一生みつからないかもしれない。また、好きではなかつたはずの仕事がやっていくうちに好きになつたということもよくある。ことさきように、「好きなこと」「やりたいこと」というのはいろんな意味で難しいのである(以下次号) (小林(健))

燃えろ 受験生!

●受験生の動きが悪い。まだまだ火の玉となつて勉強に向かう状態にはなっていない。何とかしようよ!取り返しがつかなくなるぞ!

●「そう言われても、動けないものは動けない。」「学校でも塾でも、親からも同じことを言われて頭にきているんだ。」本当だよ。大変だよ。ね。いっそ受験なんかやめてしまおうか?。志望校を思い切り下げてしまおうか?。楽になるよ。そうしようよ。

●「こういふと、ほとんどの生徒はだまる。」「受験やめます。」「志望校はうんと下げます。」という受験生には、会ったことがない。そうなのだ。受験生は、受験をやめたくない。志望校を下げたくないのだ。これを読んでいるきみもきつとそうだ。では、どうする?選択肢は3つしかない。①受験をやめるor志望校を下げる。②いままで通りダラダラとすごす。③全力を出して頑張る。さあ、どれかを選べ。きみが①を拒否するならば、②か③。

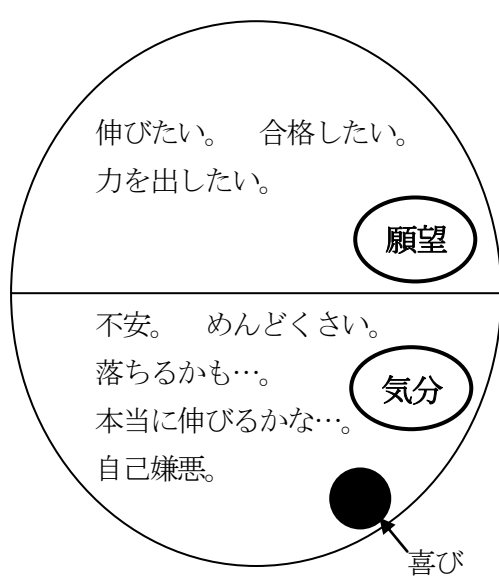
●今までは、自分の意志で②を選んできたのだ。「やるが多すぎて……。」「集中力が続かない……。」「不安で仕方がない……。」面談の度に、次から次へと言い訳が出てくる。それがどうしたんだ。だから、どうしたいというのだ。特別の理由があれば別だが、きみたちのほとんどは、そうではないはずだ。いろんな理屈を並べながら、②を自ら選択しているのだ。そして、かわいそうなきみ達は、これから入試までずっとダラダラ過ごすのだ。そう、自分の意志で。

●ところで、自分が望むことをしている時、人はどんな表情をしていると思う?そうだ。明るいのだ。活き活きしているのだ。だったら、自分でダラダラすることを選択したきみは、もっと明るい顔をしなければならぬ。ニコニコすべきだ。だから、笑えよ。明るい顔をしてみろよ。できないって?そうだ。できるはずがない。

●きみ達は、自分が望むことをしていないからだ。自分の願望を裏切っているからだ。自分を大切にしていないからだ。これがきみの、暗い顔の正体だ。

●では、きみの願望とは何だ?それは自分でよく分かってはいるはず。①力を出すこと。②成績を伸ばすこと。③志望校に合格すること。この3つに尽きるはずだ。だったら、それを大事にしろよ。その願望につながる行動をしろよ。それが、きみ達がすべきことなのだ。

●さて、受験生の心の中は左のようになっていく。上と下は一体。上を大事にして行動すれば、上が大きくなって勇気がでる。上を粗末にすれば、下が8割ぐらいを占めてこれは苦しい。でも、不安や自己嫌悪など下がゼロになることは



ない。でも、頑張れば、上が8割、下が2割ぐ
らいまでになって、これは堂々と戦っていける。
そういう状態を早く作るべきだ。

●そうなるためには？気分はほつといて、機械
の如く勉強するのだ。続けるのだ。すると不思議。
気分が変わるのだ。気分を先に変えるのは
不可能で、願望に沿った行動(勉強)をすること
で気分が変わる。気分の中に、喜び(●)が
生まれ、不安などが小さくなり、願望がふくら
む。もう一度言う。気分はほつておいて、機械
の如くやるべきことをやれ。(以下次号)

(小林 健)

月のウサギ

●『月にいるうさぎ見たことある人〜?』『し〜
ん:』たまに『見たことある!!』という生徒が
いると話が盛り上がる。『よし、月には日によつ
てウサギかカニがいるから、見つけてくるのが
宿題だ』『(心の中で)何言ってるの?いるわけ
ないじゃん……』

●現在中学3年生の理科では天体を学習して
いる。(教室によりこれから学習の生徒もいるか
な)理科の授業中に
毎年聞いている質
問だ。生徒の反応
はたいていいつも
こんな感じだ。今
年は「写真にとつ
て拡大したらウサ
ギがいました!!」
と言ってくれた生



徒がいた。ありがとう。その好奇心、探究心を
大事にしてもらいたい。

●生徒たちは自分たちの身近?親しみある月で
さえゆっくり見ることがないらしい。自分も
様々なことに興味を持って、積極的に調べたり
してきたというわけではないけれど、生徒たち
を見てみると、もう少し興味を持ってもいいの
ではと感じてしまう。

●受験生にとっては、受験勉強は大切だ。入試
のために天体を学習しているのかもしれない。
しかし、大人になったとき「太陽は西から昇つ
て、東に沈む」と言ってほしくない。マンショ
ンや戸建てのチラシで「南向き」が重要視され
ているのが分からないのは困る。東西南北の
位置関係に至ってはあたり前になっていないと
いけない。すでに受験や試験のためではなく、
大人になるための常識レベルではないか。そう
いう意味でも、もっと身の回りの現象や、自然
に興味を持ってほしい。

●幸か不幸か、今の世の中調べたいことはイン
ターネットを利用してすぐ調べられる。興味が
あることをどんどん調べて、自分の世界を広げ
てほしい。

●これは、もちろん理科だけのことではなく、
どの教科にも言えることであろう。そんな気持
ちで学習に取り組むと、また違った思いで新鮮
に取り組むことができるかもしれない。

●現在創学舎では、教室にニュートンの別冊や
ムック(ちなみにムックとは雑誌マガジンと書
籍ブックを合わせた言葉だそう)を置いてい
る。ぜひ手にとって眺めてもらいたい。錯覚の
本はお勧めです。
(松永)

学び、活かす(と)

●9月23日のスーパー陸上を最後に、長年日本
の陸上界を引っ張ってきた朝原選手が引退した。

●昨年の創学舎ニュースに、世界陸上が16年ぶ
りに日本(大阪)へやってくるという内容を書
いた。その中で、朝原選手とリレーチームにつ
いて触れたが、その時は残念ながら5着でメダ
ルには届かなかった。本来ならば、昨年で引退
していたはずの朝原選手が、北京五輪に挑戦し
た。100mは予選落ちだったが、リレーはバ
トンパスがうまくいき、見事陸上トラック競技
で初となる銅メダルを獲得したのである。リレ
ーの日本チームは、若手とベテラン選手がしつ
かりと協力し合い、走力が劣っているのをチー
ムワークとバトンパスでうまくカバーした。
銅メダルをとった時の4人のインタビューは、
とても印象的だった。「ここまで来られたのは、
日本を長年引っ張ってきた土台を作ってくれた
先輩たちがいたからだ。我々は、その先輩たち
が作ってきたものを学び、その土台に乗っかっ
て結果を出しただけだ。」と語った。今までのメ
ダリストの中で、これだけ先輩たちへの思いが
強いインタビューを聞いたのは初めてだった。

●今回、メダルを取ったこともすごいが、それ以
上に、今まで積み重ねられてきた技術をしっか
り学び、活かせたという実感が選手一人一人に
あることもすごいと思った。

●同じようなことが、勉強に対しても言える。
「なぜ勉強しないといけないのか?数学なんて
世の中に出て全く使わないと思うのですが。」と
いう質問をする生徒がよくいる。確かにそうな

のかもしれない。知識などは、社会に出て使う
ことのほうが少ない。では、なぜ今勉強をして
いるのか。それは成績を上げ
ることも一つの目的ではあ
るが、科目を通して、物事の
学び方を身につける訓練をし
ているのである。数学であれば、その昔先人た
ちが知恵を絞って考え出した公式の導き方を学
び、それを使って自分で論理的に考え、答えを
見つける努力をする。これが重要なのである。
勉強やスポーツで、先人たちの残した知識を学
ばないで、成功はありえないということだ。

●今、「勉強はなぜするのか。」と悩んでいる人
は、まず科目の基礎をしっかりと学び、それを使
って問題を解くという重要性を見つめなおして
ほしい。そのことによって、今まで何千年、何
百年と培われてきた人間の知識を感じ、それら
を学ぶ楽しさもわかるはずである。私も知識だ
けにとどまらず、私が得てきたものを少しでも
毎回の授業で伝えていきたい。君たちにとって、
一番多忙で重要な2学期に何か一つでも前へ進
めるように頑張ってもらいたい。

(小林 健)



▲▼▲継続希望の方へ▲▼▲

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。

創学舎の本

■愛の壁■

—お父さんお母さんあがの愛の壁—
著者: 小林 健右
2006年5月1日発行 (1,500円税込)

新星堂他全国書店にて
好評発売中!